

## 今日のトピック オンリーNASDAQから解放される世界の株式市場 米国に加え、中国、日本、アジアがけん引役に

### ポイント1 2020年の世界株式市場は堅調 中心は米国NASDAQ市場

- 2020年の世界経済は新型コロナウイルスの感染拡大と経済活動の制限からリーマンショックを超える大幅な悪化となりました。その中で、大胆な金融緩和と未曾有の財政出動に加え、ニューノーマルの流れを的確に捉えるIT企業が多く上場する米国NASDAQ市場が、世界の株式市場の中心として大きなけん引役となりました。

### ポイント2 NASDAQから解放される世界の株式市場 目覚ましい中国の堅調ぶり

- 世界の株式市場は昨年11月に大きな分岐点を迎えました。米大統領選挙でバイデン氏が勝利したこと、新型コロナウイルスのワクチンの実用化にメドが立ったことなどが背景です。それ以降、景気回復に対する期待が確信へと変化する中、過剰流動性は、出遅れた株式市場へと向かい始めています。2021年2月までにその流れは一気に加速することになりました。
- 年初から2月16日までの主な株価指数の騰落率を見ると、最高値更新を続ける米国は、NASDAQが+9.0%です。一方、MSCI中国が+18.8%、香港ハンセン指数も+12.9%とNASDAQを大きく上回る上昇率で中国市場の堅調さが際立っています。日本市場も日経平均株価などが堅調です。

### 今後の展開 21年は米国に加え、中国、 日本、アジアがけん引役に

- 米国では大型の景気対策への期待は強く、世界的な金融緩和も持続する見通しです。また、ワクチンが普及し始めたことで、世界経済の先行きに明るさが増しています。これまでは米国市場中心の期待形成でしたが、中国、日本、そしてアジアの景気・企業業績の回復に対する期待度が高まっています。21年は米国市場に加え、中国、日本、アジア市場が堅調に推移すると期待されます。世界の株式市場は、ようやくNASDAQ中心の期待形成から解放され始めました。(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【主要株価指数の騰落率】

(%)

主要株価指数		20年	21年2月
米国	NYダウ工業株30種	7.2	3.0
	S&P500種	16.3	4.7
	NASDAQ100	43.6	9.0
日本	日経平均株価	16.0	11.0
	TOPIX	4.8	8.9
	東証マザーズ	33.3	10.4
中国	上海総合	13.9	5.2
	MSCI中国	25.9	18.8
	深圳総合	38.7	10.3
	香港ハンセン	▲ 3.4	12.9
アジア	加権 (台湾)	22.8	7.3
	韓国総合	30.8	10.1
	ジャカルタ総合 (インドネシア)	▲ 5.1	5.2
	SET (タイ)	▲ 8.3	5.1
	ST (シンガポール)	▲ 11.8	3.2
	SENSEX (インド)	15.8	9.1
欧州・その他	ロシアRTS	▲ 10.4	7.7
	イスタンブール100 (トルコ)	29.1	4.5
	ユーロストックス	▲ 1.6	4.8
	DAX (ドイツ)	3.5	2.5

(注) 20年は2019年12月末と2020年12月末の比較。21年2月は2020年12月末と2021年2月16日の比較。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### ここもチェック! 2021年2月15日 幅広い投資の選択肢が見つかる『中国の株式市場』 2021年2月 3日 好業績を背景に日本株式市場の上昇基調が続こう

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。